

スイーツウォーク 2018

代表者 竹下颯人（経済学部経営システム学科2年）

1. 目的と概要

香川県内には様々なお菓子屋、お菓子取扱店がある。私たち KAGAWAMaker は「お菓子で香川を盛り上げる」をコンセプトに2017年4月より活動してきた。その活動の一環として、香川県内のお菓子屋をめぐり、実際に試食し、情報発信するという活動をしてきた。しかし、その活動を通して、それらのお菓子屋さんとはとても素晴らしいお店が多いにもかかわらず、多くの人に知られているわけではないということがわかった。そこで、より多くの人にすてきなお菓子屋があることを知ってもらいたい、素晴らしいお菓子を通して香川の良いところを発信していきたいと考えた。そこで県内に点在している素敵なお菓子屋が一堂に集結し、より多くの方が香川のお菓子について知ることのできるイベントをしたいと考えた。県内の様々なお菓子屋にお声がけする予定なので、今後 KAGAWAMaker としても多くのお菓子屋とのつながりの場となり、私たちの最大の目標である「お菓子で香川を盛り上げる」の達成に少しでも近づくと考える。また、地域に根差す大学として「香川を盛り上げる」を目標とし、活動することで香川県内の方はもちろん、県外の方からも注目していただき、香川大学について知ってもらう機会になると考える。そして、県内のお菓子屋を集めてイベントを行うので、イベントでの集客はもちろん、その後もリピーターとして多くの方がお菓子屋に足を運ぶきっかけになると考える。また、今回の企画では坂出にある坂出緩衝緑地で行う予定だが、その緑地帯はきれいに整備されているにも関わらず、訪れる人がそう多くはなく地域の方々も活用方法に困っているという課題があげられる。そこで今回のプロジェクトを通して多くの方が足を踏み入れるきっかけとなり、周辺地域の活性化にもつながると考える。これらの波及効果を踏まえ計画されたものです。

2. 実施期間（実施日）

平成30年11月23日 駅からウォーク 屋島駅

平成30年12月1日、2日 讃岐の和スイーツフェア in 丸亀ポート

3. 成果の内容及びその分析・評価等



まず、スイーツウォークの当初の企画ですが、各所に設置した給スイーツ所（給水所のスイーツ、お菓子版）でスイーツ補給を楽しんでもらいながらゴールを目指していただくというイベントでした。この企画は自分たちの力で主催としての開催を目指したものでしたが、場所の関係、衛生面、ノウハウのなさなどから難しいと判断しました。自分たちの力で開催が難しいこと

がわかったので、代替案として既存のイベントに附随する形でのイベントを模索することにしました。その一つが「讃岐の和スイーツフェア」になります。

「讃岐の和スイーツフェア」については経緯から説明すると、7月14日に私たちKAGAWAMakerの活動の柱であるスイーツ巡検という県内のお菓子屋さん取材するという活動をした際、丸亀市にあるほうげつどうさんにて丸亀競艇場で行われるお菓子祭りのお話をいただきました。それから8、9、10、11月の5か月の準備期間を経て12月1日、2日の2日間で讃岐の和スイーツフェアを開催しました。

次に、讃岐の和スイーツフェア in 丸亀ポートについて説明させていただきます。12月1日、2日に丸亀市観光協会が主催で、香川県菓子工業組合青年部などが協賛で行われたスイーツフェアです。私たちKAGAWAMakerは、丸亀観光協会、菓子工業組合青年部の協力のもと、豪華景品を用意したクイズラリーを行いました。このクイズは香川の伝統的なお菓子の文化を広めたいという思いのもと、それらをテーマに取り上げ、作成しました。このイベントは、競艇場発表によると、来場者は5000人。そのうち、クイズラリーに参加していただいた方は508人になりました。アンケートによると、約9割の方にはイベント・クイズラリー共に満足していただだけ、大勢の方に香川伝統のお菓子文化を広めるきっかけになったのではないかと感じました。

競艇場の敷地内に点在させる形でクイズを設置し、参加者の方にはクイズを探していただきながらゴールを目指してもらおうというものでした。また、多くのお菓子屋さんにも協力していただきました。景品はすべて提供していただき、各お菓子屋さんの豪華な詰め合わせやお店で使える商品券、引換券など本当に豪華なイベントになりました。

もう一つの代替イベントは、JR四国主催の「駅からウォーク」です。こちらも経緯から説明させていただきたいと思います。来年度以降スイーツに特化したウォーキングイベント開催を目指し、年度は試験的に既存のイベントに付随する形でウォーキングイベント参加者にスイーツ、お菓子の需要があるのか、どのような形で配布するのが適切なのか、などを研究し、来年度以降自分たちでイベントを開催できるようにする準備段階として行いました。

次に、「駅からウォーク」について説明させていただきたいと思います。このイベントは、JR四国主催のウォーキングイベントで年間を通して様々な駅をスタート地点として行われています。今回参加したのは11月23日に行われた「天空屋島・逆縦走トレッキング」です。屋島駅周辺のお菓子屋さんより無償でご提供いただいたお菓子（主に焼菓子）をウ

オーキング終了後に参加者の方に配布し、食べていただきました。参加者からは「歩いて疲れた後の甘いものはとてもありがたい」など肯定的な意見をいただきました。また、予想に反して、お菓子屋さんが協力的でした。金銭的な支援ではなく、現物支給でお願いしたのがよかったのではないかと感じています。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、香川のお菓子の伝統的な文化を多くの人に知ってもらうことができました。

また、お菓子屋さんと地域、お菓子屋さんと大学生、地域と大学生を結ぶという観点からみても、その第一歩となるようなきっかけになったのではないかと思います。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

当初の企画通りいかないことや、自分たちの力不足により苦しい場面やうまくいかないことが多々出てきて、プロジェクトの遂行自体を断念しようか考えるところまで行ったこともありましたが、先生のアドバイスやプロジェクトメンバーの意見、また、奇跡的なつながりなどにより代替企画ではありましたが、最後までやり切り、大きなイベントを成功させられたことはとても良かったです。



(駅からウォーク当日)

6. 反省点・今後の展望(計画)・感想等

反省ですが、今回のプロジェクトでは、当初の企画が十分練られておらず、当初の計画とは企画が大きすぎてしまったことがあげられると思います。しかし、不可能と判

断してから代替イベントを企画・実行できた点はよかったのではないかと感じました。もう一点は、計画、企画、実行に少し時間がかかりすぎた点です。これまでの活動からも学習していたことではありましたが、イベントは早めの告知が一番大切だと思います。逆算して早めに行動することが大切だと痛感しました。

今後の計画としては、昨年11月23日に行った「駅からウォーク」でのスイーツ提供を継続して行いたいと思います。「駅からウォーク」はさまざまな駅で行われているのでまた違った駅で違ったお菓子屋さんに協力を依頼しながらやりたいと考えています。さらには、この活動で実績を積み、最終的には自分たちの企画した「駅からウォーク」を開催したいと考えています。これは、お菓子屋さんを回るラリーイベントのような企画を考えています。JR四国からはこのような企画に関して前向きな返答をいただいております。JR四国にも協力していただきながら企画の実現にむけて頑張りたいと思います。

7. 実施メンバー

代表者 竹下 颯人（経済学部2年）

構成員 青木 萌々香（経済学部2年）

岡本 えみり（経済学部2年）

山岡 麗仁奈（経済学部3年）

中山 滯（経済学部3年）

森 愛美（経済学部3年）

澤田 みのり（経済学部1年）

瀬尾 由加里（経済学部1年）

福井 千雅（経済学部3年）

村木 桃香（経済学部3年）

8. 執行経費内訳書

配分予算額		198000円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
交通費（高松—丸亀）往復	21	1100	23300	
合計			23300	